

[原著]

言語聴覚士養成教育の臨床実習後の学生の満足度に関する Customer Satisfaction ポートフォリオ分析 ～学内・学外対応の検討～

池 寄 寛 人^{1*} 松 原 慶 吾¹
兒 玉 成 博¹ 小 藪 真知子¹

Customer satisfaction portfolio analysis on student's satisfaction with hospital clinical practice
during speech-language-hearing therapy education:
Analysis of within the campus and the clinical practice

Hiroto IKEZAKI, Keigo MATSUBARA, Narihiro KODAMA, Machiko KOZONO

要旨

言語聴覚学専攻学生を対象に実習の満足度調査を行い、学生の総合満足度に影響する要因を検討した。3週間の評価実習と8週間の臨床実習を履修した熊本保健科学大学言語聴覚学専攻3年次生を対象とした。調査対象の人数は、評価実習が47名（男性7名、女性40名）、臨床実習が45名（男性6名、女性39名）であった。本調査は、評価実習および臨床実習での外部での実習が終了した時点での学内ガイダンスにて用紙を配布し、無記名でのアンケート調査を行った。アンケートに対する回答からCSポートフォリオ分析を用いて、臨床実習に対する総合満足度に関連した要因を分析した。総合満足度に関連する要因として、「希望施設アンケート」、「健康状態」、「通学距離」の3つが挙げられた。この3つの要因は優先して改善される必要がある。今後も臨床実習後の満足度を向上させる効果的なアプローチを検討するためにも言語聴覚学専攻学生の調査を継続していきたい。

キーワード：言語聴覚士養成教育、臨床実習、満足度、CSポートフォリオ分析

I 緒言

言語聴覚士の実習は、言語聴覚士養成所指導ガイドラインにて12単位以上で480時間以上の実習が義務付けられている¹⁾。本学言語聴覚学専攻の実習は、入門実習、評価実習、臨床実習の3つの実習から構成されている。まず、1年次後期に入門実習が1単位設定されており、現場の言語聴覚士のもとで1週間の見学実習を行う。次に、評価実習は3年次前期に3単位3週間で行われ、言語聴覚障害の原因、障

害メカニズムを十分に理解した上で、検査を受ける対象者や家族の心理にも配慮して、言語聴覚障害に関する各種の検査、評価が的確に行えることを一般目標としている。そして、最後の実習である臨床実習は3年次後期に8単位8週間で設定されており、保健・医療・福祉の中での言語聴覚士の役割を理解し、専門職として自立していくための基本的な能力を獲得することを目指して学生は実習に臨んでいる。これらの3つの実習は、すべて学外の臨床実習施設に依頼して行っている。よって、学生は臨床の場に

所属

¹熊本保健科学大学 保健科学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻

*責任著者：ikezaki.hi@kumamoto-hsu.ac.jp

において、実習指導者の下で指導を受けることとなる。その際に、言語聴覚士の養成の現状として、1施設に学生1名、多くても2名を配置することが多い。そのため、実習に臨む学生は、知識面および技術面における不安だけでなく、新たな人間関係など多くの不安を抱えながら実習に取り組まざるを得ない現状がある。よって、われわれはそのような現状をふまえ、不安やレジリエンスの観点から学生の不安を軽減するアプローチを模索してきた²⁾。そのなかで、低レジリエンス言語聴覚士学生の評価実習前や臨床実習後の不安の原因を調査することに加え、心理的負担の原因を取り除く面談や指導の必要性が示唆された²⁾。そこで、実習に臨む学生への効果的な面談や指導を検討するために、学生へ実習の満足度を調査するアンケートを試みた。

医療系養成校に在籍する学生への実習における満足度を調査した研究はいくつか報告されている³⁻¹³⁾。これらの報告は、薬剤師³⁻⁷⁾、看護師⁸⁻¹³⁾の養成課程での報告に限られており、言語聴覚士養成教育における学生の実習への満足度は検討されていない。よって、今回、言語聴覚学専攻学生を対象に実習の満足度調査を行い、学生の総合満足度に影響する要因を解析し、本学言語聴覚学専攻の実習学生に対するアプローチの改善点を検討した。

II 方法

1. 対象者

2017年度評価実習（平成29年7月から8月の期間の間に3週間実施）、2017年度臨床実習（平成29年10月から平成30年1月の期間の間に8週間実施）を履修している熊本保健科学大学言語聴覚学専攻3年次学生を対象とした。調査対象の人数は、評価実習が47名（男性7名：21.0±1.4歳、女性40名：20.3±0.5歳）、臨床実習が45名（男性6名：21.2±1.5歳、女性39名：20.7±0.5歳）であった。評価実習の有効回答数45名、回収率が95.8%であり、臨床実習の有効回答数41名、回収率が91.1%であった。なお、本研究は熊本保健科学大学倫理委員会の承諾を得ている（承認番号2015-43）。

2. 調査方法

本調査は、評価実習および臨床実習での外部での実習が終了した時点での学内ガイダンスにて用紙を

配布し、無記名でのアンケート調査を行った。アンケートの設問内容はその結果と合わせ表1に示した。

3. 分析方法

各設問の回答は、まったく思わない：1点、思わない：2点、やや思わない：3点、やや思う：4点、思う：5点、とても思う：6点という6段階で点数化した。設問項目別の平均値を満足度とし、設問1「評価実習・臨床実習に満足していますか」の満足度である総合満足度とそれ以外の「各設問の満足度」（設問2～14）とのSpearmanの順位相関係数を総合満足度への影響度とした。なお、評価実習に関しては、教員による実習地訪問が予定されていないため、設問14「実習中の電話対応教員または訪問担当教員の対応に満足していますか」を除いた12項目について解析した。

解析では、顧客満足度調査などで用いられるCustomer Satisfaction（以下、CS）ポートフォリオ分析を応用した相良ら³⁾の方法を適用し、評価実習および臨床実習全体の満足度に影響している要因が何かを調べた。CSポートフォリオ分析は、特定の商品やサービスにおける「項目ごとの満足度」と「全体への満足度」を測定し、各項目を4つのマトリクス上にプロットすることで、改善項目や強みを視覚的に理解する手法である¹⁴⁾。

CSグラフでは、満足度を縦軸、影響度を横軸、満足度と影響度の各平均値を中央の区切り線として4分割された二次元のグラフに各設問項目をプロットした（図1）。こうしてできたグラフ上の4つの



図1 CSグラフの説明

マトリクスは、それぞれ満足度が低く影響度が高い重点改善項目、満足度と影響度がともに高い重点維持項目、満足度が高く影響度が低い維持項目と満足度も影響度もともに低い改善項目と定義される。

また、偏差値 CS グラフは CS グラフのプロットをもとに計算したもので原点から第 4 象限（右下）に向け角度が小さく遠く離れた項目ほど要改善度が大きくなる。さらに、改善度から改善項目とその改善すべき優先順位の抽出を行った。平均値偏差および相関係数偏差値は表 2、表 4 の数値から以下の式により求めた³⁾。

$$\text{平均値偏差値} = 10 \times (\text{平均値} - \text{総平均値}) \div \text{標準偏差} + 50$$

$$\text{相関係数偏差値} = 10 \times (\text{平均値} - \text{総平均値}) \div \text{標準偏差} + 50$$

CS グラフと同様に平均値偏差値を縦軸に、相関係数偏差値を横軸にとり偏差値 CS グラフを作成した（図 2）。偏差値 CS グラフより原点（50, 50）から各プロット位置までの距離を算出した。そして、原点と座標（80, 20）を結んだ直線とプロット位置を通る直線との角度を求めた。さらに、プロット位置より得られた角度の値から修正指数を求め、距離と修正指数の積によって改善度を算出した³⁾。修正指数とは、プロット位置を通る直線との角度より各プロットがどの程度第 4 象限（重点改善項目）から離れているかを表す数値である³⁾。すなわち、角度が小さいほど修正指数は大きくなり第 4 象限に近いことを表し、角度が大きいくほど修正指数は小さくなり第 4 象限の方向へ遠く離れ、かつ修正指数が大き

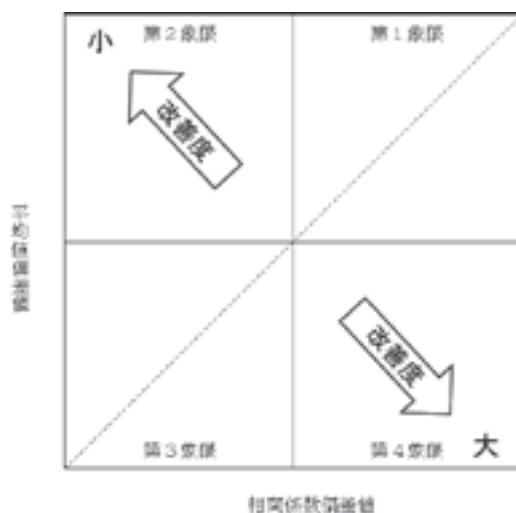


図 2 偏差値 CS グラフの説明

ければ大きいほど改善度の値は大きくなる。

$$\text{プロット位置の座標 } (x, y)$$

$$\text{距離} = \sqrt{(x - \bar{x})^2 + (y - \bar{y})^2}$$

$$\text{修正指数} = (90 - \text{角度}) \div 90$$

$$\text{改善度} = \text{距離} \times \text{修正指数}$$

プロットが第 3 象限や第 2 象限の場合は、プロット位置を通る直線との角度が大きくなるために修正指数がマイナスの値を取ることがある。改善度がマイナスの値を取るとは、改善度の値が低いことを意味しており、改善項目の順位は低くなる³⁾。改善項目は、改善度の値の大きい項目を優先する。表 2、表 4 は改善度を降順に並べて表した。

統計解析には JMP®11.00 (SAS Institute, Inc., Cary, NC, USA) を用い、有意水準は危険率 5% 未満とした。

Ⅲ 結果

1. 評価実習におけるアンケートへの回答

評価実習における各設問への回答結果を表 1 に示した。各設問への回答にて、やや思う、思う、とても思うと回答した者を「満足している」、まったく思わない、思わない、やや思わないと回答した者を「満足していない」に分類した。設問 1 の評価実習全体に対する満足度（「評価実習に満足していますか」）についての 45 名の回答を見ると、「満足している」42 名（93%）、「満足していない」3 名（7%）であった。

設問ごとのアンケートの回答は、すべての項目で満足度が 80% を超えており、高い満足度であった。そのなかでも、設問 3 「実習指導者会議前のガイダンスに満足していますか」100%、設問 5 「実習前のガイダンスに満足していますか」100%、設問 6 「実習前の実習委員の対応に満足していますか」100%、設問 7 「実習前のスモールグループ（以下 SG）担当教員の対応に満足していますか」100%、設問 12 「実習の期間は適切でしたか」100% の 5 項目は、すべての学生が満足していた。

2. 評価実習における総合満足度に影響する要因

CS ポートフォリオ分析により平均値、相関係数、平均値偏差値、相関係数偏差値、角度、修正指数、距離および改善度を求め、表 2 に示した。また、CS グラフおよび偏差 CS グラフを図 3、図 4 に示

表1 評価実習のアンケート調査への回答

設問	内容	M(SD) ^a	満足(名)	不満(名)	満足度(%)
1	評価実習に満足していますか	5.1(1.0)	42	3	93
2	実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか	4.9(0.9)	41	4	91
3	実習指導者会議前のガイダンスに満足していますか	5.4(0.6)	45	0	100
4	実習指導者会議に満足していますか	5.3(0.8)	43	2	96
5	実習前のガイダンスに満足していますか	5.5(0.7)	45	0	100
6	実習前の実習委員の対応に満足していますか	5.6(0.7)	45	0	100
7	実習前のSG担当教員の対応に満足していますか	5.4(0.7)	45	0	100
8	実習前のOSCEに満足していますか	5.2(0.8)	44	1	98
9	実習施設はあなたの希望と一致していましたか	4.8(1.2)	41	4	91
10	実習中のあなたの体調はよかったですか	4.9(1.1)	39	6	87
11	実習施設までの通学距離は適切でしたか	4.9(1.2)	39	6	87
12	実習の期間は適切でしたか	5.4(0.7)	45	0	100
13	実習指導者の対応に満足していますか	5.3(0.9)	42	3	93

a : 平均値 (標準偏差)

表2 評価実習のアンケート調査に関するCS分析データ

設問	平均値	相関係数	平均値 偏差値	相関係数 偏差値	角度	修正指数	距離	改善度
設問2	4.89	0.41	38.26	57.28	13.21	0.85	13.82	11.79
設問10	4.87	0.30	37.45	49.68	46.44	0.48	12.56	6.08
設問4	5.29	0.50	52.83	63.13	57.19	0.36	13.43	4.90
設問9	4.78	0.21	34.21	43.88	66.19	0.26	16.94	4.48
設問13	5.38	0.48	56.07	61.52	72.80	0.19	13.03	2.49
設問8	5.20	0.36	49.59	53.73	38.80	0.57	3.75	2.13
設問7	5.36	0.32	55.27	51.39	120.19	-0.34	5.45	-1.83
設問3	5.42	0.35	57.69	52.78	115.11	-0.28	8.18	-2.28
設問5	5.47	0.35	59.31	52.86	117.92	-0.31	9.74	-3.02
設問11	4.91	0.00	39.07	27.58	109.00	-0.21	24.95	-5.27
設問6	5.56	0.25	62.55	46.51	150.53	-0.67	13.03	-8.76
設問12	5.42	0.17	57.69	40.28	173.35	-0.93	12.40	-11.48
総平均	5.21	0.30						
標準偏差	0.27	0.15						

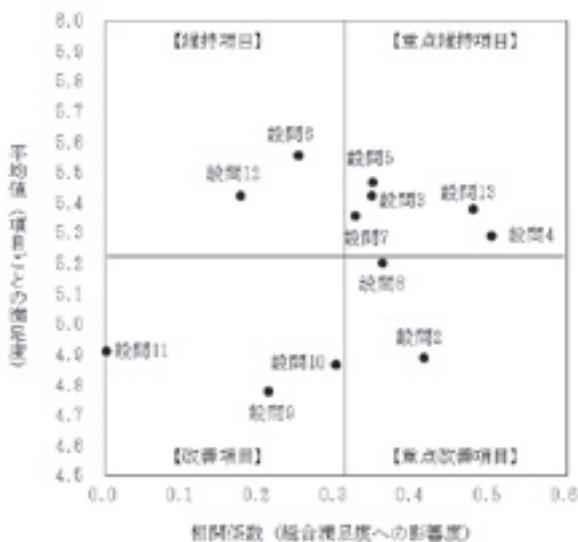


図3 評価実習のCSグラフ

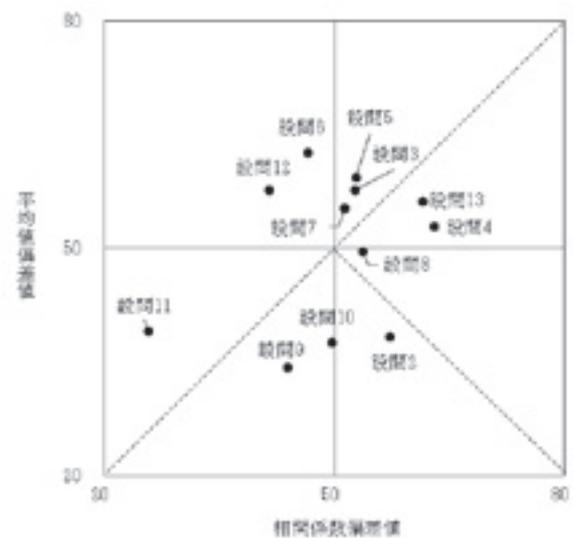


図4 評価実習の偏差値CSグラフ

した。重点改善項目が設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問8「実習前の客観的臨床能力試験（以下OSCE）に満足していますか」であった。改善項目が設問9「実習施設はあなたの希望と一致していましたか」、設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」であった。また、偏差値CSグラフおよびそれを数値化した改善度は設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」（11.79）、設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」（6.08）、設問4「実習指導者会議に満足していますか」（4.90）、設問9「実習施設はあなたの希望と一致していましたか」（4.48）、設問13「実習指導者の対応に満足していますか」（2.49）、設問8「実習前のOSCEに満足していますか」（2.13）であった。

3. 臨床実習におけるアンケートの回答

臨床実習における各設問への回答結果を表3に示した。各設問への回答にて、やや思う、思う、とても思うと回答した者を「満足している」、まったく思わない、思わない、やや思わないと回答した者を「満足していない」に分類した。設問1の臨床実習全体に対する満足度（「臨床実習に満足していますか」）についての41名の回答を見ると、「満足している」40名（98%）、「満足していない」1名（2%）であった。

設問ごとのアンケートの回答は、すべての項目で

満足度が80%を超えており、高い満足度であった。そのなかでも、設問3「実習指導者会議前のガイダンスに満足していますか」100%、設問5「実習前のガイダンスに満足していますか」100%、設問6「実習前の実習委員の対応に満足していますか」100%、設問8「実習前のOSCEに満足していますか」100%、設問14「実習中の電話担当教員または訪問担当教員の対応に満足していますか」100%の5項目は、すべての学生が満足していた。

4. 臨床実習における総合満足度に影響する要因

CSポートフォリオ分析により平均値、相関係数、平均値偏差値、相関係数偏差値、角度、修正指数、距離および改善度を求め、表4に示した。また、CSグラフおよび偏差CSグラフを図5、図6に示した。重点改善項目が設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」、設問13「実習指導者の対応に満足していますか」であった。改善項目が設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問7「実習前のSG担当教員の対応に満足していますか」、設問12「実習の期間は適切でしたか」であった。また、偏差値CSグラフおよびそれを数値化した改善度は設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」（10.98）、設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」（10.74）、設問13「実習指導者の対応に満足していますか」（7.03）、設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足し

表3 臨床実習のアンケート調査への回答

設問	内容	M(SD) ^a	満足(名)	不満(名)	満足度(%)
1	臨床実習に満足していますか	5.5(0.8)	40	1	98
2	実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか	4.8(1.1)	36	5	88
3	実習指導者会議前のガイダンスに満足していますか	5.4(0.6)	41	0	100
4	実習指導者会議に満足していますか	5.3(0.7)	40	1	98
5	実習前のガイダンスに満足していますか	5.4(0.6)	41	0	100
6	実習前の実習委員の対応に満足していますか	5.7(0.5)	41	0	100
7	実習前のSG担当教員の対応に満足していますか	5.1(1.1)	38	3	93
8	実習前のOSCEに満足していますか	5.4(0.7)	41	0	100
9	実習施設はあなたの希望と一致していましたか	5.0(1.2)	34	7	83
10	実習中のあなたの体調はよかったですか	4.6(1.3)	33	8	80
11	実習施設までの通学距離は適切でしたか	5.2(1.0)	38	3	93
12	実習の期間は適切でしたか	5.2(0.7)	40	1	98
13	実習指導者の対応に満足していますか	5.4(0.9)	39	2	95
14	電話または訪問担当教員の対応に満足していますか	5.6(0.6)	41	0	100

a: 平均値（標準偏差）

表4 臨床実習のアンケート調査に関するCS分析データ

設問	平均値	相関係数	平均値 偏差値	相関係数 偏差値	角度	修正指数	距離	改善度
設問11	4.59	0.30	28.54	50.39	43.97	0.51	21.46	10.98
設問10	5.00	0.41	42.01	57.50	1.80	0.98	10.96	10.74
設問13	5.22	0.49	49.15	62.94	41.23	0.54	12.97	7.03
設問2	4.83	0.29	36.47	49.72	46.17	0.49	13.53	6.59
設問14	5.46	0.58	57.07	68.60	65.81	0.27	19.90	5.35
設問4	5.27	0.40	50.73	56.67	51.26	0.43	6.71	2.89
設問12	5.17	0.20	47.56	43.83	113.44	-0.26	6.64	-1.73
設問5	5.44	0.30	56.28	50.32	132.06	-0.47	6.29	-2.94
設問8	5.41	0.23	55.49	46.19	169.80	-0.89	6.68	-5.92
設問6	5.66	0.31	63.41	51.15	130.11	-0.45	13.46	-6.00
設問7	5.12	0.00	45.98	30.98	123.06	-0.37	19.44	-7.14
設問3	5.41	0.17	55.49	41.88	169.05	-0.88	9.80	-8.60
設問9	5.61	0.14	61.83	39.82	175.73	-0.95	15.61	-14.87
総平均	5.25	0.29						
標準偏差	0.31	0.15						

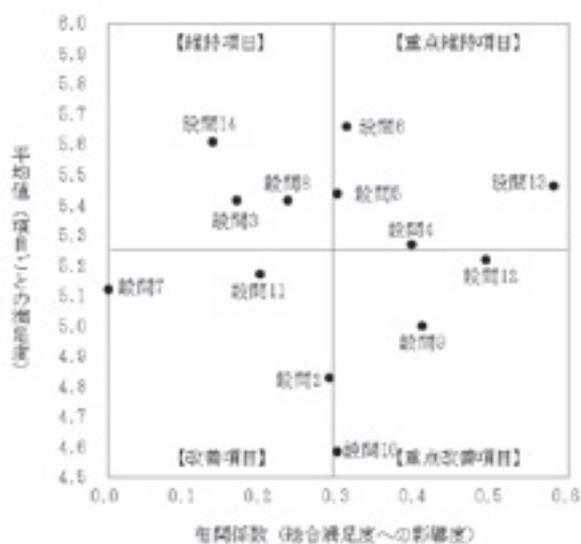


図5 臨床実習のCSグラフ

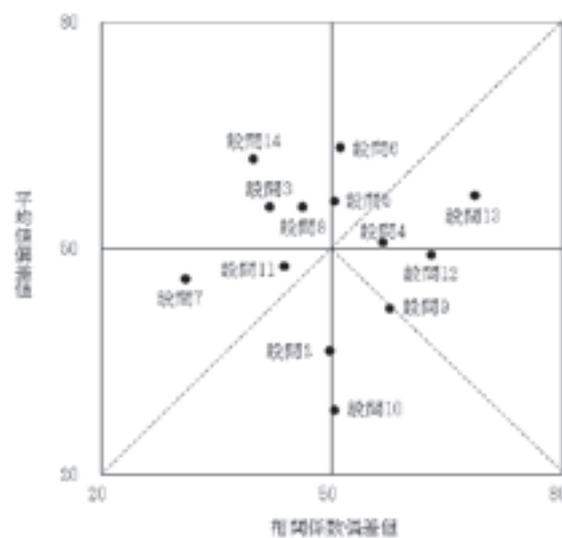


図6 臨床実習の偏差CSグラフ

ていますか」(6.59), 設問14「実習中の電話担当教員または訪問担当教員の対応に満足していますか」(5.35), 設問4「実習指導者会議に満足していますか」(2.89)であった。

IV 考察

1. 評価実習と臨床実習に共通する改善点

言語聴覚学専攻学生を対象に実習の満足度調査を行い、学生の総合満足度に影響する要因を検討した。3週間の評価実習では、重点改善項目が設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問8「実習前のOSCEに満足していますか」

であった。改善項目が設問9「実習施設はあなたの希望と一致していましたか」、設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」であった。8週間の臨床実習では、重点改善項目が設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」、設問13「実習指導者の対応に満足していますか」であった。改善項目が設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問7「実習前のSG担当教員の対応に満足していますか」、設問12「実習の期間は適切でしたか」であった。評価実習ならびに臨床実習において共通して抽出された設問は、設問2

「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」であり、実習施設の配置や実習中の学生の体調にかかわる内容であった。本学言語聴覚学専攻は、実習施設への学生配置をするにあたり、学生に希望する実習施設のアンケートを行っている。希望アンケートでは、実家から通える実習施設を3施設、自宅から通える実習施設3施設、県外の実習施設3施設を聴取し、各希望施設への移動距離や移動手段についても記載してもらっている。どのような実習施設で実習を経験するのかということは、将来的な進路の選択にもかかわる要因であり、実習に臨む学生からすると重要な要因であると考えられる。そのため、実習担当教員は、学生の実習配置にあたり、学生の希望する実習施設に配置する努力が求められると考えられた。また、実習学生の体調不良については、われわれが実習にて教員の対応が必要であった事案を集計および分析したところ、学生ならびに実習指導者ともに病欠の報告や相談が多かった¹⁵⁾。このことから実習中に体調不良を起こす学生がいることがわかる。体調不良時の対応として、学生には実習施設のみならず、養成校にも報告と相談をするように、実習前のガイダンスにて指導し、そのことは実習マニュアルにも対応を明記している。このことから、病欠の報告や相談が多いことは特に問題ではない。本学言語聴覚学専攻の実習期間は、評価実習が7月から8月にかけて、臨床実習は10月から12月にかけて行われるため、インフルエンザや感染性胃腸炎などの感染性疾患に罹患する可能性は否定できない。よって、学生を実習施設に配置するにあたり、体調不良時に保護者からのフォローが得られやすい実家から通える実習施設への配置を極力検討することが望ましいと言える。

2. 評価実習の改善点

評価実習における実習学生への満足度調査にて、重点改善項目として挙げられたのは、実習施設の希望アンケートと実習前のOSCEであった。本学の言語聴覚学専攻では、実習に必要な言語聴覚療法の実践能力を獲得させることを目的に、3年次前期にOSCEを講義で実施している。OSCEの対象検査は、小児言語聴覚検査、Mini Mental State Examination、標準失語症検査、純音聴力検査、標

準ディサースリア検査である。OSCEに向けて学習することで学生の臨床実践能力は高まり¹⁶⁾、主体的な学習が促進される¹⁷⁾と言われている。また、われわれはOSCEを行うことで、学生と教員と関わる機会が増加し、学生が教員に相談しやすい環境を整えることができることも報告している²⁾。このように、OSCEは臨床実践能力を高めることが報告されていることをふまえると、本研究にて実習前のOSCEの影響度が高いこと、つまり、評価実習の総合満足度と相関が高かったこともわかる。しかし、他の設問に比べて、実習前のOSCEの満足度が低く、重点改善項目として、位置づけられたことから次年度に向けて、OSCEの対象検査や主体的な学習を促す手法について検討が必要であると考えられた。

3. 臨床実習の改善点

臨床実習では、評価実習にて改善項目に挙がっていた実習中の体調、実習施設までの通学距離に加えて、評価実習にて重点維持項目であった実習指導者の対応が新たに挙げられた。これは、3週間の評価実習に比べて、8週間と長期にわたる臨床実習では、実習指導者の対応が実習学生の満足度にとって大きな影響を及ぼしていることを示している。言語聴覚士学生の実習では、1施設に1名から2名と限られた人数の配置になっているのが現状であることから、一つの学年の実習を行うのに多くの実習施設が必要である。多くの実習施設へ委託しているということは、実習施設により実習指導者が異なるということであり、実習指導者の指導方法にも差異が生じる。よって、指導方法の差異を軽減するためにも、本学の言語聴覚学専攻では、実習マニュアルに実習の進め方を明記し、実習指導者会議の場で流れの説明を行うなど実習指導者の指導方針や流れの差異を減らすべく取り組みを行っている。今回、実習学生の満足度調査にて、実習指導者の対応が挙げられたことから、今後も、養成校として継続して取り組んでいかななくてはならない課題であることを再認識した。

4. 評価実習と臨床実習に共通する重点維持項目

CSグラフで評価実習後の満足度調査にて重点維持項目であった設問4「実習指導者会議に満足していますか」、設問5「実習前のガイダンスに満足していますか」は臨床実習後の満足度調査においても変化はなかった。本研究対象の養成校では、評価実

習前に4回、臨床実習前に2回ガイダンスを実習担当教員が行い、評価実習後と臨床実習前には学内セミナーを行っている。実習前のガイダンスでは、実習に臨む心構えだけでなく、トランスファーや感染対策、トラブル時の対応について指導を行っている。このような、実習に向けて学内で行う取り組みは継続して実施することが重要であると考えられた。また、実習指導者会議は、5月下旬から6月上旬の時期に評価実習と臨床実習の実習指導者会議を開催している。各実習施設の都合もあることから、すべての実習指導者の参加は難しいものの、学生からすると実習指導者と直接会うことができる限られた機会であり、学生にとって有益な場であると言えた。

5. 今後の展望

本研究では、各設問を6段階で点数化した結果を、CSポートフォリオ分析にて解析した。しかし、学生がアンケート調査にて自由記載で感想や意見を記載してもらった点については、今回示していない。今後は、自由記載についても解析を行い、学生の意見を実習指導に反映できればと考えている。また、今後の展望としては、評価実習および臨床実習を履修する言語聴覚士養成課程の学生の実習満足度を向上させるためにも、実習全般の満足度に影響する因子を設問の分析から明らかにしたい。そのためにも、継続してデータ収集を行い検討していく。

V 結語

言語聴覚学専攻学生を対象に実習の満足度調査を行い、学生の総合満足度に影響する要因を検討した。3週間の評価実習では、重点改善項目が設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問8「実習前のOSCEに満足していますか」であった。改善項目が設問9「実習施設はあなたの希望と一致していましたか」、設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」であった。8週間の臨床実習では、重点改善項目が設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」、設問13「実習指導者の対応に満足していますか」であった。改善項目が設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問7「実習前のSG担当教

員の対応に満足していますか」、設問12「実習の期間は適切でしたか」であった。評価実習ならびに臨床実習において共通して抽出された設問は、設問2「実習前の実習施設希望アンケートに満足していますか」、設問10「実習中のあなたの体調はよかったですか」、設問11「実習施設までの通学距離は適切でしたか」であり、実習施設の配置や実習中の学生の体調にかかわる内容であり、その点について配慮が必要であることを示していた。

文献

- 1) 厚生労働省：言語聴覚士養成所指導ガイドラインについて. 2015, <https://www.mhlw.go.jp/> (2018年9月22日検索)
- 2) 松原慶吾, 池寄寛人, 小蘭真知子：言語聴覚士におけるレジリエンスと実習前後の不安との関係について—新版 STAI と S-H 式レジリエンス検査を用いて—. 熊本保健科学大学研究誌, 15 : 11-18, 2018.
- 3) 相良英憲, 北村佳久, 古野勝志, 他 : Customer Satisfaction (CS) 分析を応用した実務実習モデル・コアカリキュラム実施における改善項目の抽出. 医療薬学, 32(4) : 295-305, 2006.
- 4) 相良英憲, 北村佳久, 名和秀起, 他 : 実務実習モデル・コアカリキュラムに準じた2.5ヵ月トリアル実習における薬剤管理指導業務実習への病棟専任薬剤師の関わり. 医療薬学, 33(4), 331-338, 2007.
- 5) 相良英憲, 北村佳久, 岡崎宏美, 他 : 病院実務実習における改善項目抽出法の検討. 医療薬学, 35(3) : 202-208, 2009.
- 6) 寺町ひとみ, 中村光浩, 高島英滋, 他 : 4回生における病院実務実習の満足度調査から見えてきた改善点. 医療薬学, 34(4) : 374-380, 2008.
- 7) 小林道也, 小田雅子, 齊藤浩司 : 北海道医療大学薬学部3年次学生における調剤実習の満足度調査—任意薬局研修経験の有無と希望進路による影響—. 薬学雑誌, 125(5), 417-425, 2005.
- 8) 寺脇恭子, 岸本千春, 土井愛好加, 他 : 精神科臨床実習の指導体制を考える : 看護学生の満足度調査を実施して. 鳥取臨床化学研究会誌, 4(1), 35-49, 2011.
- 9) 浅見多紀子, 久保かほる, 鈴木妙, 他 : 複数患

- 者受け持ち実習の方法と指導に対する学生の満足度と担当看護師の自己評価. 日本看護学会論文集 看護教育, 43, 78-81, 2012.
- 10) 原田美枝子, 中谷章子: 小児看護学における看護学生の満足度とその要因. 湘南短期大学紀要, 24: 61-66, 2013.
 - 11) 佐藤未和, 塚越聖子, 坂入和也, 他. 精神看護学実習における学生実習満足度に関する研究. 日本看護学会論文集 精神看護, 44, 205-208, 2014.
 - 12) 辻村弘美, 中村美香, 桐山勝枝, 他: 基礎看護学実習における学生実習満足度と学生指導体制に関する考察: 2011・2012年度と2013・2014年度を比較して. 群馬保健学紀要, 36, 21-29, 2015.
 - 13) 小島さやか, 小林祐子, 帆苺真由美, 他: 周手術期看護学実習における手術室実習の満足度を高める要因: 実習状況および手術室看護師・教員の指導との関連. 新潟青陵学会誌, 9(1): 63-72, 2017.
 - 14) 田辺智子: 「満足度」と「重要度」を用いた業務分析～国立図書館の利用者アンケートをもとに～. 現代の図書館, 47: 36-44, 2009.
 - 15) 池寄寛人, 松原慶吾, 小菌真知子: 臨床実習において教員の対応が必要な言語聴覚学専攻学生の特徴. リハビリテーション教育研究, 24: 190-191, 2018.
 - 16) 長岡由紀子, 川波公香, 川野道宏, 他: 客観的臨床能力試験を評価に取り入れた演習科目の授業評価～学生の自己評価を中心とした分析～. 茨城県立医療大学紀要, 17: 31-40, 2012.
 - 17) 星隆, 粟生田博子, 佐藤成登志, 他: OSCEの準備学習期間における学生の主体的学習活動の検討. 新潟医療福祉会誌, 14(2): 2-9, 2014.
- (平成30年11月9日受理)

Customer satisfaction portfolio analysis on student's satisfaction
with hospital clinical practice during speech-language-hearing
therapy education:
Analysis of within the campus and the clinical practice

Hiroto IKEZAKI, Keigo MATSUBARA, Narihiro KODAMA, Machiko KOZONO

Abstract

The purpose of this study was to determine the degree of satisfaction with clinical practice among hospital in speech-language-hearing therapy students after clinical practice at a hospital. Following 3weeks and 8weeks of clinical practice, we conducted a questionnaire survey about the satisfaction of 3rd year of speech-language-hearing therapy students in the department of Rehabilitation Division at Kumamoto Health Science University of after the clinical practice. Using CS-portfolio analysis of the questionnaires responses, we identified the factors closely related to over all satisfaction with a clinical practice. We revealed three special satisfaction factors that were in particular need of improvement, namely, facilities, health condition and commuting distance. We would like to continue investigating speech-language-hearing therapy students to devise effective support methods of increasing satisfaction with clinical practice.